

阿波農村舞台通信

Awa Nouseonbutai Report

2006

No.7



平成17年10月22日(土) 西祖谷山村・後山襖からくり舞台復活公演、下:平家物語「横笛」(浄瑠璃/鶴賀若狹椽、三味線/鶴賀伊勢穂、上調子/鶴賀伊勢次郎、立方/松千晶)

農村舞台関連イベント情報

韓国からテレビ取材

竹本友和嘉

去る12月25日、今山農村舞台で傾城阿波の鳴門を語らせて頂いた。韓国のTV取材という嬉しいお仕事だった。と言うのも近年の韓流ブームにはまってしまい、ほんの一ヶ月前に弟子ら四人で、念願の韓国旅行を楽しんできた矢先、その韓国に徳島の誇る人形浄瑠璃が紹介されるとあって感慨ひとしおだった。天気は晴天。今山農村舞台保存会、阿波農村舞台の会の方々が 焚き火をして下さり暖をとって、日韓和気相合といった雰囲気の中で舞台は始まった。鳥のさえずり、焚き火のバチバチと響く音。マイク無しの舞台にふと自分の知らない昔にタイムスリップした様な気分になった。やっぱり農村舞台はいいなあとつくづく思う。山の緑や風を感じおいしい空気を腹一杯吸いながら(笑)語る気持ちよさは例えようがない。今迄どれだけの大夫さんがこの境内の観衆と気持ちを一に、芸と向き合い、心と声を振り絞って語ってきただろう。その歴史の深さや芸の重みを真摯に受けとめ、これからも懸命に精進してゆきたいと思う。



拝宮から徒然に・・・

檜 千尋(桧小舎主宰)

拝宮へ初めて行ったのは、2004年の復活公演の日でした。拝宮までの道のり、神社、舞台等を含めた景観の素晴らしさ、そして何よりそこに生活している人々の根っこのある姿・・・それらに魅了され、その年の秋祭りに参加させて頂きました。一昨年、初めて拝宮の秋祭りで奉納させて頂いたテーマは「京女郎」。亡父・檜瑛司が徳島の民俗芸能という宝から発掘し

阿波農村舞台通信

平成18年 No.7 2006年3月15日発行

阿波農村舞台の会

〒770-0803 徳島市上吉野町3-22-2 佐藤方
Tel/Fax.088-655-6457 mail: info@nouseonbutai.com
http://www.nouseonbutai.com/

Design 川上一デザイン室

阿波農村舞台通信

座や岡花座を招いて人形浄瑠璃公演を開催したこともあるそうで、今後も地域内外の人が集う装置として活用していけるようお手伝いができれば、と考えています。



編集後記

これから自分たちがする事・出来る事 実働部隊 川村一道

早いもので阿波農村舞台の会発足からもう3年目に突入。この間に様々な人と出会い、交流を持てた事に感謝しています。このような関係はこれからも大切にしていきたいと思います。

しかしながら今でもすべての人とい関係になれるとは限らず、復活公演を手がけるにあたり地元の方の協力・支援を受けるのにすんなり行かない場合も多々あります。地元の人々と阿波農村舞台保存の会との間に温度差があるのは仕方の無い事、今後これらをどう解決していくのが大切だと思います。

まずは、阿波農村舞台保存の会の中で足並みを揃える事が第一歩。今更何をと思いますが、3年目に入り、初心に帰ったつもりで縦横の連携をフルに使い、人形遣い・太夫・三味線などお互い垣根を越えて協力する事により様々な舞台の復活が容易になり、阿波農村舞台の会が出来事を増やせるのではと思います。

何と言ってもここまでやってこれたのもひとえに関係各所皆様のおかげだと思っています。この場を借りて御礼申し上げます。

阿波農村舞台の会

農村舞台の調査や公演の支援等の活動を行っています。会員になると、機関紙(年2回程度)、その他農村舞台関連の催し物情報等をお届けします。

●年会費 一般会員2千円、運営会員5千円、賛助会員1万円●入会方法 事務局へご連絡ください。入会申込書と会費の振込用紙をお送りいたします。ホームページからも入会申し込みができます。

た一際華やかな存在です。歩き巫女として各地に芸能を残した「京女郎」は拝宮へも来た!という直感から、昔から今へと続く拝宮へ奉納させて頂きました。昨年は「鳥」。鳩が平和を告げたように、踊る事で幸運を告げられるなら・・・、という勝手な願いを込めました。

拝宮もそうですが、こんな所に・・・、という感じで農村舞台はあるように思います。今の生活スペースとはかけ離れているのでしょう。そこに舞台があるのは生活し、生きる人々がある(あった)事。父母や祖父母、それらにつながる土地や生き方を愛し、敬う事は伝統や文化の根っこのように思います。

ご縁があれば、農村舞台では子供達の笑い声が聞こえてきそうな舞台を作りたいと、夢見ます。舞台空間として時の流れの中で完成されたものに、また子供達が少なくなった土地に、必要のように思われて・・・。そしてそれはいつか子供達の根っこになると信じて・・・。



平成17年11月3日(木) 拝宮の秋祭りでの奉納

阿南市林崎農村舞台の調査

佐藤憲治

12月4日、林副会長ら5名で調査にお伺いしました。阿南バイパスの終点近くを右折してすぐというアクセスの良い舞台で、自治会所有の土地が隣にあるなど、駐車場も確保できそうです。境内には集会所があり、楽屋やトイレも問題なさそうです。舞台は間口5間、奥行き3間、神社本殿に向かって右側にあり、太夫座が本殿に向かうオーソドックスな形式で、潮の香りのする阿南らしい雰囲気の良い舞台です。前面はトタン張りですが、その他は蔀板張り、屋根は本瓦葺きの風格のある造りです。明治43年の幕も保存されています。

渡辺会長さんら自治会の方たちのお話をお伺いすることができました。老朽化した舞台の取扱いについて、以前から自治会で検討してきたようですが、何とか保存・活用を図っていききたいとのことです。勝浦